

第6章 重点プロジェクト

本計画の将来像である「みんなでつくる ころろ豊かに暮らせるまち やまきた」の実現に向けて、特に重要と考えられる取り組みを、重点プロジェクトとして次のとおり定めます。この重点プロジェクトに関連する事業は、今後優先的に実施していくこととします。

1 関係人口・定住人口拡大プロジェクト(やまきたチャレンジ)

関係人口を増加させ、関係人口から定住人口へ、そのためには山北町を多くの方に知ってもらうことが必要です。そして、町の魅力に触れた方が町を訪れ、リピーターとなって、移住を検討するようになります。

新東名高速道路のスマートインターチェンジの新設は、来訪者を増やすきっかけとなることから、この機会に町全体へ元気があふれるような取り組みを推進し、持続可能性を高めていくことが重要になります。

そのため、「関係人口・定住人口拡大プロジェクト」を重点的に推進します。

施策1 スマートインターチェンジ周辺土地利用構想の実現

- ❖ オアシス公園、河内川ふれあいビレッジの再整備を推進します。
- ❖ 旧清水小・中学校、旧清水保育園の跡地活用を推進します。
- ❖ 新東名高速道路「河内川橋（仮称）」を望む眺望スポットの整備を推進します。
- ❖ スマートインターチェンジを起点とした、周辺地域と連携した広域観光ルートを開発します。
- ❖ スマートインターチェンジを中心とした広域幹線道路の整備を促進します。

施策2 効果的な土地利用や施設等の利活用

- ❖ 丸山地区町有地や中川地区町有地などの土地利用を推進します。
- ❖ 都市マスタープラン※や住宅マスタープランに基づく都市基盤整備を推進します。
- ❖ 未利用施設等の有効な利活用を図ります。
- ❖ 山北駅、東山北駅周辺整備を推進し、賑わいの創出を図ります。

※都市マスタープラン：都市づくりの具体性ある将来ビジョンを確立し、個別具体的な都市計画の指針として地区別の将来あるべき姿をより具体的に明示し、地域における都市づくりの課題とこれに対応した整備等の方針を明らかにしたもの。



施策3 オンリーワンの磨き上げ

- ❖ 蒸気機関車「D52」を活用した誘客を図る取り組みを推進します。
- ❖ 洒水の滝などの町内に複数ある滝、丹沢湖、大野山などの山々からの眺望等、各観光拠点の環境整備や魅力を高める取り組みを図ります。
- ❖ 地域資源を活用した商品を「山北ブランド」として認定するため、未登録となっている地場産品の掘り起しを進めるとともに、既認定品の販路拡大に向けた取り組みを行います。
- ❖ ユネスコ無形文化遺産登録された「山北のお峰入り」、国指定天然記念物「箒スギ」をはじめ、数多くある文化財や歴史的資源の認知拡大を図り、保存・活用につなげます。

施策4 より一層の移住・定住対策

- ❖ 民間活力を活用した住宅開発や基盤整備を促進します。
- ❖ 未利用地の宅地化を推進します。
- ❖ 民間団体との連携を図り、空き家バンクを活用した定住対策を推進します。
- ❖ 地域や関係団体等と連携を図り、関係人口から定住人口へつなげる取り組みを図ります。

施策5 まちの魅力を高める情報発信

- ❖ 町の魅力を町内外に積極的に発信し、町の認知度を上げるため、シティプロモーション※を推進します。
- ❖ ふるさと納税やクラウドファンディング※を活用して、山北町の魅力を発信します。
- ❖ 様々な地域間交流や交流事業をとおして、関係人口の創出を図ります。

※シティプロモーション：地域の魅力を内外に発信し、ヒト・モノ・カネを呼び込み、地域経済を活性化させる活動。

※クラウドファンディング：インターネットを使って不特定多数の人々から資金を集める仕組みのこと。

2 魅力向上プロジェクト（やまきた版 Well Being）

山北町に住みたい、住み続けたいと思われるためには、山北町のよさや魅力を知ってもらい、体感できることが必要です。

山北町の魅力の一つに豊富な自然があげられます。都会化を目指すのではなく、豊かな自然を守りつつ、町民も来訪者も、Well Being（肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態）を実感できること（やまきた版 Well Being）が重要です。

そのため、「魅力向上プロジェクト」を重点的に推進します。

施策1 より一層の子育て支援

- ❖ 妊娠、出産、育児と、切れ目のないきめ細かな支援の推進と助成制度の充実を図り、子育てにかかる負担を軽減します。
- ❖ 子育て支援センターなど、子育て相談や情報交換、交流の場の提供と充実を図ります。
- ❖ 子どものための安全・安心な環境づくりを推進します。

施策2 誰一人取り残すことのない支援

- ❖ 困ったときに誰でも相談できる体制を整え、必要な支援を行います。
- ❖ ひきこもり、ヤングケアラー※、独居高齢者など、社会的に孤立している方を支援します。
- ❖ 関係機関と連携し、高齢者虐待、児童虐待の防止やDV※被害者を支援します。
- ❖ 災害時に迅速な対応が行えるよう、避難行動要支援者制度などによる支援体制の構築を図ります。

※ヤングケアラー：本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることのこと。

※DV：Domestic Violence の略。配偶者または事実婚のパートナーなど親密な関係にある人（または親密な関係にあった人）からの暴力のこと。

施策3 未来へつながる教育・保育の推進

- ❖ 0歳から15歳までの一貫教育・保育をとおして人間力[※]と社会力[※]を育成します。
- ❖ 園、小学校、中学校、さらに高等学校との相互の連携と交流を図ります。
- ❖ ICT[※]を活用した学習機会を充実するなど、教育環境整備を推進します。
- ❖ 山北の豊富な自然や歴史・文化、産業等につれ、学ぶことで、郷土に愛着がもてるよう探求学習を推進します。

施策4 防災対策の充実

- ❖ 防災・減災に向けた災害に強いまちづくりを推進します。
- ❖ 防災に対する気運を高め、自主防災組織の体制強化を図ります。
- ❖ 計画的に地域防災計画等を見直します。
- ❖ 消防力の維持増進を図り、火災予防意識の高揚を図ります。

施策5 恵まれた自然環境の保全・活用

- ❖ 森林環境の保全・整備や木材の利活用を推進します。
- ❖ 森林の持つ癒しの機能を活用した森林セラピー体験事業を推進します。
- ❖ 関係機関と調整を行い、カヌーやSUP[※]などによる三保ダム・丹沢湖の湖面利用を図ります。
- ❖ 脱炭素社会を目指すため、自然環境や地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入を推進します。

施策6 生活交通・移動手段等の確保

- ❖ 地域公共交通計画に基づき、将来にわたり誰もが利用しやすい、新たな移動サービスの導入を図ります。
- ❖ 鉄道や路線バスの輸送力を維持するため、交通事業者と協議・調整を図ります。
- ❖ 新たな移動手段や輸送手段など、デジタル技術を活用した新たなモビリティサービスについて調査・研究します。

※人間力：基礎的な素養を身につけ、自己実現を図っていく力や身近な人とともに適切な関係を結び、生きていく力。

※社会力：社会と関わりをもち、社会の一員となって役割を果たしつつ、生きていく力。

※ICT：Information and Communication Technologyの略。情報や通信に関する技術の総称。

※SUP：Stand Up Paddleboardの略。大きめのボードに乗り、立った状態でパドルで漕いで水面を進むウォータースポーツのこと。